



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	世中で育てる「21世紀型能力」研究最終年度：本校で育てたい人物像とそれを支える力（研究部より）( fulltext )
Author(s)	岡田,仁
Citation	教育と研究 / 東京学芸大学附属世田谷中学校(40): 4-5
Issue Date	2015-11
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/140262">http://hdl.handle.net/2309/140262</a>
Publisher	東京学芸大学附属世田谷中学校
Rights	

## 本校で育てたい人物像とそれを支える力

研究部 岡田 仁

---

### 1. ここ3年間の研究

本校では、この3年間において、「21世紀型能力」をいかに培っていくかという点に主眼を置いて、教育課程の研究を行いました。そこでは主に、各教科で21世紀を生き抜くためにはどんな資質・能力が必要で、それをどのような過程で培っていったらよいかを検討してきました。その中で見えてきたものは、基礎力をつけて、それを応用して問題解決をしていくというよりも、生徒の取り組み甲斐のある課題を与えることで、生徒はそれを解決するために、基礎力とともに問題を解決する力、人と関わる力を同時に身につけていけるということでした。また、学校全体での検討を行うことで、教科間で育てる資質・能力の違いや共通点が見えてきました。また、同じ素材を扱うときの教科間での育てたい力の違いなどもわかってきました。

### 2. 本校で育てたい力

本校は、以前から社会の変化に対応すべく、学習指導要領に基づき、本校の教育目標を念頭におき

ながら育てたい人物像を確認し、その実現のためのカリキュラムを編成するための研究を行ってきました。その人物像は「豊かな教養を持ち、まわりから信頼され、自ら考え行動できる人」です。この人物像は、国立教育政策研究所が提案した「21世紀型能力」を身につけた人物像とも矛盾しないものと考えています。

平成24年度までの研究では、この人物像を実現するために育てたい力として、「問題を解決する力」と「人と関わる力」を上げ、それを支える基礎的な力として、能力面では、思考力、判断力、表現力、創造力、計画力 調整力などをあげ、態度面では主体性、自律性、協調性、責任感などをあげました。そして、最も基礎となるものを知識・技能としました。今回の研究では、この育てたい力を、「21世紀型能力」と照らし合わせて再び検討し、下の図のようにまとめました。

ここでは、国立教育政策研究所で提案されている「21世紀型能力」の中核をなす大きな意味での「思考力」を「実践力を支える力」

と表現し、能力面と態度面に分けて捉えました。図の「能力面」の中の思考力は国立教育政策研究所の考える大きな「思考力」ではなく、能力の中の一つの要素としての「思考力」を指します。

今回の研究で、基礎力とそれを活用する力（図では「実践力を支える力」にあたる。）には、段階はあるものの、分離できるものではなく、両者が有機的に結びついていることが確認されました。

本校ではどの教科も課題を与え、自ら考えることを重視し、生徒の思考力を高めるような授業を行っています。よって「21世紀型能力」の根幹をなす広義の思考力の育成はどの教科でもを重視されていると考えています。広義の思考力のベースとなる基礎力の育成については、各教科で少しずつ

違ってきます。

言語スキルでは国語はもちろん、どの教科でも必要です。数量スキルは、社会、数学、理科、技術・家庭などで特に必要となります。情報スキル、特にICT活用のスキルの育成では、国語、社会、技術・家庭、英語などが貢献しています。そして実践力の育成については、各教科もそれぞれ工夫していますが、生活学習の行事などにおける育成も著しいと思われます。生活学習では、生徒が考え、運営していく場面が多くあります。この中で、生徒たちは仲間どうし協働して困難を乗り越えて目標を達成していく経験をします。その中で生徒は、他では決して得られないような大きな達成感を味わい、いろいろな能力を身につけていると考えています。

